

令和3年度 社会福祉法人えどがわ評議員会・理事会

実施日	議 案	場 所	出席人数
令和3年 6月2日（水） 第99回理事会	①令和2年度事業報告について ②令和2年度決算報告について ③評議員選任・解任委員会委員の選任について ④理事・監事候補者の選出について ⑤評議員・評議員会参与員候補者の選出について ⑥定時評議員会の招集について ⑦評議員選任・解任委員会の招集について ⑧工事請負契約の審議について ⑨就業規則の改正について	社会福祉法人 えどがわ 事務局会議室	7名
令和3年 6月22日（火） 第86回評議員会	①令和2年度事業報告について ②令和2年度決算報告について ③理事・監事の選任について ④工事請負契約の審議について ⑤就業規則の改正について	タワーホール船堀 福寿	10名
令和3年 6月22日（火） 第100回理事会	①理事長・副理事長・常務理事の互選について	タワーホール船堀 福寿	10名
令和3年 9月24日（金） 第87回評議員会	①令和3年度事業報告(中間報告)について ②令和3年度補正予算（案）について ③規程類の改正（案）について	タワーホール船堀 瑞雲	12名
令和3年 9月24日（金） 第101回理事会	①令和3年度事業報告(中間報告)について ②令和3年度補正予算（案）について ③規程類の改正（案）について	タワーホール船堀 瑞雲	10名
令和3年 12月22日（水） 第88回評議員会	①令和4年度事業計画（案）について ②給食調理業務委託者の選定について ③令和3年度第2回補正予算（案）について	タワーホール船堀 福寿	10名
令和3年 12月22日（水） 第102回理事会	①令和4年度事業計画（案）について ②給食調理業務委託者の選定について ③令和3年度第2回補正予算（案）について	タワーホール船堀 福寿	9名
令和4年 3月23日（水） 第89回評議員会	①令和3年度第3回補正予算（案）について ②令和4年度当初予算（案）について ③規程の新設などについて	タワーホール船堀 平安	8名
令和4年 3月23日（水） 第103回理事会	①令和3年度第3回補正予算（案）について ②令和4年度当初予算（案）について ③規程の新設などについて	タワーホール船堀 平安	10名

令和3年度 葛西おひさま保育園事業報告

2021/3/31

1. 計画に基づく総括(管理者の思い)

- ・8月～2月大規模改修工事を実施。保育と並行しての工事だったが、職員と保護者の協力により、事故なく無事に終了。
- ・コロナ感染症も長引き3年以上経過、今まで以上に感染症対策の徹底、クラス単位での制限、行事のありかたの見直しを丁寧に行った。
- ・工事や感染症等で保護者との、関りが登降園のみとなり、密を避けることで保護者との相談(個人面談)が以前よりも減ってしまい残念だった。
- ・園内研修や各職層のスキルアップ研修については、計画通り実行することが出来た。次年度も取り組んでいきたい。
- ・職員の人間関係が良好で、協力したり連携が取れているので退職者はなし。いつまでも長く働ける職場になるよう今後も目指していきたい。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

- ・子ども達が安全に快適に過ごせるよう、3年かけて各クラスの発達に合わせた玩具の見直しをし行い環境設定を整えた。
- ・開園から20年目。保育室・園庭・全館換気・トイレ水回り・園周りの大規模改修工事を実施し快適に生活できるように安全対策の見直しをした。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で講師による英語、リトミック、和太鼓はほぼ中止となり、年間を通してのねらいが達成できず不十分だった。
- ・密にならないよう、各クラス単位で保育をし、身体を十分動かし発散できるように園庭遊び、散歩を充実させた。
- ・子育てひろばの開催を予定していたが、まん延防止等重点措置でほとんど実施することが出来なかった。(後半の2回実施)
- ・ホームページやブログを使い、保育園の魅力や各クラスの様子をアップし地域の方や保護者に発信したが、利用者の増加につながらなかった。

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

新園児管理システム、新ホームページが導入され、現段階では職員も試行錯誤しながら取り組んでいる。保護者と保育園の円滑なコミュニケーションを行う事を目的として今後は幅広く活用できるよう各クラスの様子をアップし、ドキュメンテーションを取り入れるなど、子ども達の姿の見える化していけるよう努めていく。

保育の面では、計画性を持ち子どもが活動の中で大切な事や、子どもの興味や関心を考えて行っているか？大人主導ではなく、子どもを第一に考えた保育を展開し日々の積み重ねが保護者に伝わるように対応する。

専科の実施や実習生、子育てひろば、職場体験などをできる限り充実していけるよう取り組む。年々外国籍の方や、配慮の必要な子どもが増え、アプリやノートを利用して理解できるよう努め、面談等で保護者の困っている内容についてを援助していきたい。また、小学校と連携を取ることができるよう、学校と相談して取り組めることがあれば実践していく。

4. 保護者からの評価を受けて

コロナ禍中でも行事等、子ども達が楽しめるよう工夫し感謝している。また保育中の発熱やケガをした際の職員の対応の評価は高く、引き続き丁寧に関わっていく。

しかし、保護者の意見や要望は多く、保護者の理解、納得が得られるように迅速な対応を取っていききたい。

些細な事でも全職員が、会議等で情報の共有を行い、保育園の様子や日々の子どもの姿を発信し改善する。

5. 職員からの評価を受けて

職員間の連携が取れ雰囲気が明るく風通しの良い環境である。

今年度から月に一度クラス会議を行う事により、職員間での、意見交換が活発になった。しかし、経営層の連携がうまくとれていないという指摘もあったので改善していきたい。

個々に意見は違うが、職員一人一人の意見をしっかり聞いてより良い園づくりを目指していく。

令和3年度 新堀おひさま保育園事業報告

2021/3/31

1. 計画に基づく総括(管理者の思い)

- ・職員の子どもに対する思いが、保育の展開と円滑な人間関係に繋がるよう、職員一人一人の思いに寄り添いながら保育環境を整えた。
- ・大規模改修工事が決定し、長い工期ではあったが、都度施工業者と職員と打ち合わせを繰り返し、誰でも使いやすく温かい雰囲気の保育環境となった。
- ・保育環境は整ったが、保育の質の面では保育士自身の「気付き」「感じ」「考え」「取り組む」力が足りないと感じる。今後も保育士一人一人が意識をもって保育に取り組むことが必要。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

- ・大規模改修工事中も安全に子どもたちが過ごせることができ、保育が進められるよう遊戯室の設定を工夫し職員、施工業者と共に話し合い環境整備を行い保育を展開した。
- ・一人一人の姿を職員会議などで共有し、子どもの処遇について、全職員で考え、保育の展開をした。
- ・他機関(児相等)との連携は密に行う事が出来たが、コロナ禍ということもあり、保護者との子どもの育ちを共有する場面を設けることが難しかった。

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

- ・報告、連絡、相談の徹底を引き続き行い、「気付いたこと」「感じたこと」を保育園をより良くする為、会議等の場所で、意見を上げ改善していく。
- ・保育の質の向上と保育士の感性を養う為、園内研修に取り組んで行く。
- ・保育の様子を保護者へより多く発信して行くと共に引き渡しの時など「子どもの様子に一言添える」を徹底していく。

※上記2、を踏まえて、令和4年度にどのように改善するかについて記載してください。

4. 保護者からの評価を受けて

保育園の雰囲気が明るく、風通しの良さを感じる等の声が多かったが、その反面伝達内容が薄く、子どもの様子が伝わっていない等の現状が明らかになった。登降園児には、その時間を利用して、子どもの様子を伝えられるようにしていく。

5. 職員からの評価を受けて

- ・コロナ禍と大規模改修工事が重なり、情報共有、検討の場が増えた。その結果、職員間のコミュニケーションが豊かになり、連携が増した。また、担当クラス以外にも、目を向け助け合う視野の広さを持つ意識が高まった。
- ・職員間の仲の良さが、保育について気を遣い「気付き」や「感じたこと」が伝えづらくならないように気を付けて行きたい。

令和3年度 東小松川 おひさま保育園事業報告

1. 計画に基づく総括(管理者の思い)

2022/5/1

・職員の入れ替わりがあり、異動職員、新採職員と既存職員の保育観等を、リーダー会議等で話し合い、良好な人間関係に繋がるよう、また子ども中心の保育を考え、職員が考える事が出来た。特に保育観に関しては、個々の考えを、ぶつけ合い理解し合えるように何回も話し合う事が出来た。職員一人の一人の気持ちに寄り添いチームワーク作りをしてきたつもりだったが、もっと違う角度から職員を見て意見等にも耳を傾け良い人間関係を築き上げたい。

・保育士の得意分野を保育活動に活かし音楽リズム、絵画等子ども達と楽しみながら行えた。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

・一人一人の発達や環境等をとらえ把握し、必要とする関りや支援が行えるよう、リーダー会議や職員会議(状況報告)で子どもの情報を全員で共有し保育を進めた。個を大切にするとする事を前提に、職員同士が関わりの中で思いやる、寄り添い認め合えるよう、人との関わりの楽しさを知る事が出来た。

・乳児保育について園内研修を行い、環境設定や子供の動線について学び、保育での一日の流れが、スムーズに無理なく過ごせるように職員が理解するようにした。

・コロナ禍の中、保護者とのコミュニケーションが希薄にならないよう、職員が登降園時に「元気でした」だけではなく、子どもの様子を話す様に心掛けた。又ブログの写真を増やし、子ども達の日常生活を見える化できるよう努めた。

・コロナ禍の為に、入園希望の見学等ができなかったが、ホームページを活用、電話等での対応を丁寧に行った。

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

新型コロナウイルス感染症の中、「新しい生活様式」を取り入れ、一人一人を大切にしながらクラス単位で丁寧な保育活動が出来た。

全体での行事や交流ができなかった事は残念ではあったが、生活様式の緩和を期待し展開できるよう、行事や環境等に対して職員とじっくり取り組み進めていく。

副園長、主任、副主任が、保育のリーダー的存在として、保育環境や行事について、子どもにとって何が良いのか、何を伝えたいのかを具体的にし取り組みたい。

保護者との関りが登降園のみだったが、今年度導入した、新園児管理システムを活用し、写真や日々の保育での出来事を発信する。

4. 保護者からの評価を受けて

大半の保護者は、職員や園に対して、明るくアットホームで優しく対応している事に感謝しているとの意見あり、しかし、行事の中止や縮小になったりベテランの職員が異動になることに対しては、不満を感じている。コロナ禍の行事に対しての考え方や説明を充分に行い、今後の行事に工夫をこらし子どもが楽しく行っている事を発信したい。

5. 職員からの評価を受けて

他園からの異動者もいたことで、保育の見直しをしたり、会議では、自由に職員の意見が言えるようになった。人間関係が良い。職員の働きやすさを重点的に考え実践してくれている。風通しが良くなり園の雰囲気も良くなった。

人間関係に対しての評価が多いが、今後もチーム力を生かしていく。

令和3年度 鹿骨おひさま保育園事業報告

1. 計画に基づく総括(管理者の思い)

2021/3/31

- ・8月から約8か月(3月まで工事が続いた)に及ぶ大改修を無事に終了し、保育環境が格段に良くなった。
- ・長い工事の中での保育を経験したことで、職員の耐性、協力と工夫が培われた。
- ・保育環境の向上に伴い、環境を整えることにより、子どもの姿が変わったと職員が実感できたことは大きな収穫であった。
- ・乳児保育の安定した確立と幼児保育の主体的な活動の援助の保育について、まだまだ課題はあるが少しずつ前進出来ている。
- ・今年度もコロナ禍の保育であったため、昨年同様行事もクラス単位となり、感染状況によっては中止した行事もあった。
- ・保護者に保育園での子どもの様子を見てもらう機会が今年度も少なかったのは、園としては残念であり、子どもの共通理解に欠けた問題も生じた。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

- ・子どもたちにとって安全で、安心できる保育環境を提供し、一人一人の気持ちに寄り添う保育を目指した。今年度は工事のため、遊戯室での保育や工事音の中で過ごす事もあったが、大きな問題にはならず子どもたちは健やかに過ごす事が出来た。
- ・コロナ禍の中、講師による英語遊び・体育遊びは中止となる事が多く、継続的に遊びながら学ぶことが少なくなった。英語は保育士自らが進める事は難しいが、体育遊びは保育の中で体育講師から教えてもらった事を活かした。
- ・保護者との日々のやり取りを通して、子育ての応援者として保護者を支える努力をした。
- ・地域の子育て家庭に対しては、園に来て直接のやり取りは出来なかったが、リモートでの子育てひろばを開催し、子どもと楽しく過ごせるようなアイデアを提供し、好評だった。

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

保育環境が改善され快適となった反面、生活する中で気になる部分が見えてきた。子どもの動線や興味関心を把握し、安全に生活できるよう都度見直ししていきたい。コロナ禍で不十分であった行事の開催、園児交流、保護者とのコミュニケーション、保育内容の周知、地域支援等、感染拡大に留意しながら徐々に緩和し、積極的に進めたい。保護者が保育園の活動を理解できるよう様々な方法で周知していく。また、今年度より導入したウエルキッズの園児管理システムで、保護者とのコミュニケーションや保育内容のアピールとしてドキュメンテーションを意識し活用していく。乳児保育は一人一人に向き合い安心して生活する子どもの姿が見られ情緒の安定の大切さを実感している。半面、職員配置や臨機応変に対応する力不足を感じる。限られた人員の中で仕事の効率化や休憩、残業等、働く環境の整備が急務である。

4. 保護者からの評価を受けて

園運営に関しては、大半の保護者からご理解を頂けているが、子どものトラブルや怪我に対して厳しいご意見を頂いた。園としてはトラブル等が発生したら誠意をもって伝えていたが、伝え方の相違や受け手の感情もあり、時には不満という結果になった。これと付随して、登降園の声掛けも職員によっては差異があるというご意見も頂いた。園全体で話し合いを重ね、トラブル等はこれまで以上に丁寧に説明をする、声掛けは、エピソードなどを的確に伝えられるように努力するようにした。

5. 職員からの評価を受けて

職員間のコミュニケーションは概ね良好で、明るい職場である。その中でも、个性的で自己主張をする職員もいるが、集団での働き方の考えの違いによって、職員それぞれの立場から意見が出た。それでも仕事をする上での目標を明確にしていくことで各々努力はしていた。職員が自分たちで考え、実行していく機会を増やすためにリーダー層の職員の力を借りて進めていった。

令和3年度 北葛西おひさま保育園事業報告

1. 計画に基づく総括(管理者の思い)

2021/3/31

- ・職員からの子どもへの丁寧で優しい声掛けがあり、子どもにとって居心地のよい安心できる環境を提供した。
- ・昼礼ではクラス報告だけでなく、保育の中でのエピソードとして子どもの姿の1場面をしっかり捉え、職員に伝えた。中堅保育士の自分の保育観も入れながら、目的や考えをもって、取り組んだ様子を伝えていることで、全職員が子どもに合わせた活動や目的の大切さを知ることが出来るようになり、お互いを高め合っている関係に繋がった。
- ・園舎の環境を工夫して、安全に配慮して、玄関ロビーで乳児が身体を動かし、2階広場ではボール遊び等も取り入れ活発な姿が見られ、雨天でも様々な活動を行った。
- ・統一する内容については、細目に園内研修として実施し、周知を図った。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

- ・各保育室や事務所の入り口に感染防止のためのビニールカーテン、テーブルにはつい立を設置、消毒の徹底や職員の検温を実施、感染防止に努めた。
- ・クラス間の連携を図り、広い園舎内を利用して、様々な活動を提供した。
- ・保育士の穏やかで優しい言葉掛けが、子ども達が安心して過ごせる環境をつくっている。じっくり遊べるおもちゃ選びや設定を考えた。
- ・日中の子どもの姿を伝えるように、登降園時の保護者との会話を大切に、子育てについて、保護者と共有するよう心掛け努めた。
- ・子育てひろばを含め、コロナ禍にあって地域との関りができなかった。

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

感染対策については、引き続き徹底し、安全、安心を確保し、コロナ禍前の保育園の生活に近づけられる様工夫をし保育や行事を進めていきたい。継続した遊びの展開や、子どもの生活の仕方を考えることで、遊びが充実し生活意欲へと繋がり、個々の成長がクラス全体への良い影響になっていくことが期待されると思う。

子どもの発達に見通しをもち、保育を進めていくために、職員全体で様々なことを確認し、職員の意識と保育力の向上を目指し、職員が自信をもって保育にあたり、やりがいへと繋げていく。園内研修や会議を重ね、他者の意見を聞く機会を大切に、互いを尊重し合い、職務に質の向上と働きやすい職場を目指していく。登降園時の声掛けや、保育園からの日々発信を行い、子育てを楽しめるようサポートをしていく。

4. 保護者からの評価を受けて

コロナ禍ということを理解し、散歩や戸外での遊びができなかったことで、子どもの環境の変化に満足していない評価があった。また、園舎内に保護者が入室できなかったことから、園での子どもの姿や様子を知ることが以前より減ったと感じている等の評価があった。コロナ染状況も以前と変化してきているため、その点については、登降園時を利用して声掛けや、子どもの様子を伝えていくことに努めていきたい。

5. 職員からの評価を受けて

若い職員が多いためか、体制的に厳しいと感じていることがあり、職員数を増員するなどの要望の意見があった。また、自己表現できる場や意見を言いやすい職場環境を望んでいることが分かった。しかし、その反面、人間関係について改善されてきているという意見もある。感染対策については、職員の意識も高い結果だと思える。必要な情報の職員周知の対策として、園内研修をしていったが、日々の伝達にはまだ工夫が必要だと感じられる。

令和3年度 葛西第二おひさま保育園事業報告

2021/3/31

1. 計画に基づく総括(管理者の思い)

- ・コロナ禍で、子ども、保護者、職員が安心、安全である保育園を築くということはたやすい事ではなかったが、保護者の協力理解のおかげで1年を過ごせた。
- ・全職員が様々な角度から保育を考え、真摯に子どもと向き合おうと努力した。
- ・子どもが主体的に行動する環境を作ろうとした点で、保育士の努力を大いに評価し、継続を期待したい。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

- ・保育士との関係を拠り所にしながら周囲の環境に対する興味や関心が高まり、活動の幅を広げる事が出来る様になった。(養護)
- ・心身ともに健やかに成長できるよう努力した。(教育)
- ・様々な場面で多様な経験を重ねた。(教育)
- ・保育士の学び合いが生まれた。(教育)
- ・保護者が子育てに自信を持ち子育ての楽しさを実感できる機会が持てた。(子育て支援)
- ・地域を含めた家庭の子育ての孤立を防ぎ、子育ての不安を和らげるよう心掛けた。(子育て支援)

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

- ・保育士との関係を拠り所にしながら子どもが健康で安心して過ごす生活を継続し作っていく。(養護)
- ・心身ともに健やかに成長できるよう子ども一人ひとりが主体的に過ごす生活を作り、多様な経験が出来る様にする。(教育)
- ・保育士の積極的な学びで質の高い保育をめざす。(教育)
- ・保護者が子育てに自信を持ち子育ての楽しさを実感し、子どもを中心にいきいきと過ごせるよう支援する。(子育て支援)
- ・地域を含めた家庭の子育ての支援を行う。(子育て支援)

4. 保護者からの評価を受けて

- ・自然や社会と関わる機会をより多くし活動が保護者に伝わるようにする。
- ・送迎時の会話の中でその日の状況を個別に伝えと同時に保育の中で生じるトラブル等の対応をより十分になされるようにする。

5. 職員からの評価を受けて

- ・子ども一人一人の発達を大切にし、日常の生活を豊かに出来る様にしたり、職員間の情報の共有に努めている点を引き続き大切にする。
- ・子ども、保護者、職員が心身共に健康に過ごせるよう改善に努めたい。
- ・職員が抱えている自園の保育についての誇りや愛園心を持ち続けられるよう、それぞれが自身の保育を振り返り、繰り返し問い続けていく。

令和3年度 春江おひさま保育園事業報告

2021/3/31

1. 計画に基づく総括(管理者の思い)

- ・保護者の協力も含め、コロナウィルス感染防止に努め、感染者を多く出すことなく過ごすことができた。
- ・保育士自身の向上心を大切にし、発案や工夫を認め実践へと移すことに心掛けた。保育士自身が子どもの気づきをキャッチすること、一人一人の個性を大切にしていることで、様々な発案や行動に繋がり、保護者からも直接声を聞くことができた。
- ・生活面に限らず保育活動も活発にできる事で、子ども達も職員も「楽しい」を実感出来る場面が増えた。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

- ・コロナ禍での生活や活動の制限のある中、各クラス感染防止に努めながら、子ども達の姿を捉え、状況に応じて生活の流れを変更したが、子ども達の動揺はなく落ち着いて生活できた。
- ・行事の取り組みとして、異年齢の関りが出来なくなってしまうが、年齢に応じた子ども達の興味や関心を丁寧に取り上げ、例年と変わらず楽しい行事になった。
- ・各年齢毎に工夫をし、日々様々な取り組みを保護者に分かりやすく、かつ迅速に知らせていく様に心掛け、コロナ禍にかかわらず、保護者とのやり取りも増え、活動の理解にも繋がった。
- ・活動に於いては、縄跳びや集団遊び等、身体を使う遊びを多く取り入れ、身体作りに取り組み、大きなケガや事故がなく過ごせた。その中で人との関わる力も育まれ、クラス間だけでなく異年齢との関わりもでき、優しさや憧れをもてる関係も増えた。

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

- ・活動内容は、出来る事を最大に考え、目指す方向や意味合いを考え、子どもとの共感や職員同士の共有を深め進めていく。また、クラス別保育の内容や取り組み、気になる子への関わり方などを、職員全体で意見交換し、対応方法の統一を図る。
- ・行事のあり方として伝えるべき内容、活動での楽しみ方を経験できることを目的として計画する。又、実施後の反省点や来年度に向けての改善点を話し合い、具体的な内容検討し次年度へ繋げていく。
- ・保護者に対し一方的に伝達、お願い、協力依頼をするのではなく、保護者が望む子どもの姿や様子、保育園側で考える課題などを保護者が理解できるよう、状況や課題内容を示したうえで進めていく。

4. 保護者からの評価を受けて

園での活動が心身の発達や興味、関心について、高い理解を得られていた。特に広い園庭での活動や体験で身体を動かしての遊び、子ども達の伸び伸びとした姿に共感も多かった。縄跳びや竹馬等の遊びの発展も異年齢への広がりもあり、保護者側にも伝わっていった。しかし、理念や苦情解決については、周知方法が課題である。

5. 職員からの評価を受けて

経営層への評価は厳しいものがあつたが、自身のマネジメントや保育サービスについても、組織の一員としての自覚や意識が低いと思われる結果となった。組織として、基本的な理念やビジョン、基本方針を改めて周知するの必要を感じた。保育サービスについても、子ども達の発達にどう関わっているのかをしっかりと理解出来るよう、研修等で知識を得る必要を強く感じた。

令和3年度 東小岩おひさま保育園事業報告

2021/3/31

1. 計画に基づく総括(管理者の思い)

- ・子どもや保護者の背景に寄り添う事を大切に、場面に応じて柔軟な対応を心掛けた。
- ・チームで仕事している事を意識できるよう、感謝の言葉を日常に置き助け合いながら保育をしていくようにした。
- ・日常に子どもの話題、保育の話題を置き、職員が保育は大変な事もあるが、楽しく、やりがいのある仕事である事を感じる事のできる環境を意識した。
- ・コロナ感染に配慮しながらの保育展開。職員がコロナだからと諦めたり、コロナ前の保育のイメージが遠のいたりしてしまったように感じた。
- ・園長も含め、異動者が複数いた事により、長くいると気付けない安全対策のゆるみを修正する事ができた。
- ・職員の入れ代わりの多い1年であったが、他園の良さを取り入れる良い機会となった。異動による利点が活きていた。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

- ・子どもの行動の裏にある気持ちを考える保育を実践することにより、自身の思いを安心して表現できる児が多くなる。(養護)
- ・遊びを通して様々な経験をする中で、子どもの主体性を大切に考える力を育てていった。感染対策を念頭に置いた保育展開であった。(教育)
- ・行事の在り方も保育者が考えを固定せずこどもの興味関心に沿って柔軟に計画することで、子ども達と保育士共に楽しく行事に取り組めた。(教育)
- ・各家庭の背景やこどもの発達を十分に理解した上で助言や支援を行う事を心掛け、信頼関係を築いていった。(子育て支援)
- ・保育園の役割の一つである地域との繋がりとしては、子育てひろばの開催が出来ず開催方法の検討の余地があった事は来年度の課題。(子育て支援)

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

- ・丁寧な保育、受け止める保育とはどのような事が出来ている点、行き届いていない点を具体的に考える機会を増やしていく(保育力向上、養護)
- ・ウイズコロナの保育を実施していく。様々な経験の中に異年齢の関わりを加え、異年齢による育ち本来の保育園の良さを取り戻していく。(教育)
- ・戸外活動を意識して増やす。(教育、安全に配慮しつつ、散歩の機会を増やし歩く事を通して体力向上)
- ・子育てひろばの再開。開催しても利用者がいないのでは本末転倒。利用者増を目指す。(子育て支援)

4. 保護者からの評価を受けて

- ・子どもが楽しく保育園に通い子どもと職員との信頼関係が築かれているのご意見。※子育て支援で各家庭の背景、子どもひとりひとりの発達を大切にしている成果と捉えたい。
- ・コロナ禍の為、保育が見えにくいとの意見を踏まえ掲示等の発信を増やした。今年度はウエルキッズでの発信の機会を増やし、成長の喜びを共有すると同時に自園の保育方針もわかり易く伝えていく。

5. 職員からの評価を受けて

- ・職場の雰囲気は良いと感じている職員が多かった。その雰囲気を作っているのは職員一人一人であることを自覚することで、これからも風通しのよい職場を継続したい。
- ・法人研修で全職員で学んだ感謝、協力、貢献を意識できる取り組みをしたい。
- ・会議で意見がでない、反対に発言しにくいとの意見あり。来年度は会議のあり方を検討すると同時に様々な事を自分事として捉える事の大切さも浸透させたい。

令和3年度 西篠崎おひさま保育園事業報告

2021/3/31

1. 計画に基づく総括(管理者の思い)

- ・行事等もクラス単位の実施が主だったが、都度、由来や目的を伝え、行事を通して文化や伝統にふれて感じる体験を行った。
- ・コロナ禍で、全職員で感染対策を行い、新しい生活様式を取り入れながら保育運営を行った。
- ・保護者、職員に感染症等の情報提供を行い、継続して園運営を行った。
- ・職員の担務等の当番も職員同士で話し合いながら決め、様々な事象に対して、納得感を持ち保育を行った。
- ・働きやすい職場環境をつくり、家庭の都合やコロナ感染症による自宅待機等が発生しても継続して保育園の運営を行った。
- ・職員同士が、お互いの状況や環境等を自らか伝えた事により、他の職員が理解し、「おたがいさま」の気持ちを持って保育を行った。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

- ・月1回のクラス会議でその都度職員間で考えながら環境を見直した。
- ・子どもの欲求を満たしながら、保育をすすめた。
- ・感染対策(特に給食や昼寝)を行いながら、保育をすすめた。
- ・散歩を多く取り入れ、自然に興味を持つよう努めた。
- ・登降園時に出来るだけ、子どもの一日の様子を伝える事を心掛け、保護者と関係づくりに努めた。

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

保育内容は、感染対策を伴いながら少しずつ変化しており、常に考え、状況に応じて更新していかなければならない。そこで、職員と話し合いながら保育を進めた。今後も、日々の保育を振り返り、次へとつながるよう会議内容を話し合い、すすめていく。具体的には”あそび”の充実を考え、集中して遊び込める環境設定を目指しながら保育の充実を図る。行事の実施についても、感染対策を行いながら内容を再検討し進める。

また、保護者への、保育内容や状況の周知という点については、新たに導入する園児管理システムを最大限活用して発信していく。また、職員も活用し習熟することにより書類等に係る事務作業が低減され、保育について考えたり振り返ったりする時間を増やす事が期待される。

4. 保護者からの評価を受けて

基本的には、概ねよい評価を受けている。良い点としては、急な保育時間の変更への対応や保育中の発熱やケガなど体調変化への対応についての項目に高い評価を受けている。今後も継続していく。

また、要望や不満があった時に職員以外の第三者委員や区役所に相談できる事を、保育園がわかりやすく伝えているかという項目が低かったので、次年度に周知の方法を検討していく。

5. 職員からの評価を受けて

職員への事業継続等周知の項目が低く、計画の立案のみで理解や周知が進んでいない為、再度説明を行い、事業所としてリスクマネジメントに職員と共に取り組んでいく。

登降園時に子どもの様子を確認したり、園での様子を伝えたりする事に力を入れており、今後も続けていく。その他、職員間の連携を大事に進めており、関係性もよいのでこのまま職場環境の向上に努めていく。

令和3年度 西小岩おひさま保育園事業報告

2021/3/31

1. 計画に基づく総括(管理者の思い)

- ・子どもの最善の利益を考慮し、人権に配慮した保育を行い、職員一人一人の質の向上に努め、子ども達が保育園生活を安全で安心して過ごせるように進める。
→厚生労働省の実態調査(保育所内の不適切保育の事案)や各保育所での安全管理に関する事案等の情報を提供し、全職員で再確認をすると共に自分の保育を見つめ直す機会を作る。また、常に職員が意識出来るように 実態調査資料等を目立つ場所への掲示や定期的な確認を行う。
- ・働きやすい職場環境等を作るため、業務内容の改善を行い、職員が一つのチームとなり連携を深めながら保育に携われるようにしていく。
→乳児、幼児会議を設けた事で、何でも言い合える雰囲気や他のクラスを意識出来るようになり協力体制が更に増した。また、全職員が同じ認識を持って新型コロナウイルスの感染対策を行い保育を進める事ができた。
- ・子ども達の育みを大切にしたい保育内容となるよう努める。
→新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、様々な面で制限が設けられる中でも子ども達にとって成長を育める保育(特に体力面)を進める事ができた。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

- ・「新しい生活様式」を基本とし、職員が共通の認識を持って新型コロナウイルス感染拡大防止に努めた保育や時間差、クラス別での行事を行う。また、施設の老朽化に伴い、定期的なチェックを行い修繕、補修をし事故防止に努めた。(養護)
- ・外部講師については感染拡大防止のため実施が出来なかったが、職員が積極的にその代わりを努め、園庭や園外での体育的な活動を増やし体力向上につなげた。(教育)
- ・「子育てひろば」や「見学」については、感染拡大防止のため十分な実施が出来なかったが、子育ての情報発信や電話相談など間接的な方法を実施し、地域の子育て支援を行った。(子育て支援)

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

- ・「新しい生活様式」を基本とし、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら「直ぐに中止という判断ではなく、どのようにしたら進められるのか」という前向きな考えを持ち、新しい発想や工夫をし保育を進めていく。また、職員や保護者へ感染状況等の情報提供や発信を積極的に行い共通認識をもって感染防止に努めていく。
- 施設の老朽化に伴い、定期的な確認や補修、修繕、整理整頓を行うと共に園周りの交通状況等も含め安全管理に努めていく。また、災害や事故怪我の防止、園児の行動把握、給食の提供ミス、感染症等への危機管理の徹底を職員、保護者と共に図る。
- ・近隣や地域との関りを深め、子育て支援施設としての役割も進めると共にSDGsへの取り組みも積極的に進めていく。
- ・定員変更や延長保育の利用人数減少、人材確保など常に収支のバランスを考えた運営を行っていく。

4. 保護者からの評価を受けて

- ・「登降園時、職員による保護者への声掛けが少ない」というご意見や「保育園の基本的な考え方(理念・方針・保育目標)を知っている」というご意見が少なかったため、次年度に向け「積極的に保護者への声掛け」や「園だより、掲示物等にて基本的な考え方を伝えていく」
- ・安全対策の徹底や保護者への注意喚起(特に保育園前の飛び出しや施錠、門の開閉等の確認)を行い園児の安全に努めていく。

5. 職員からの評価を受けて

- ・職員同士のコミュニケーションが良く取れており、引き続きチームとして保育が進められるよう対応していく。
- ・業務に追われ、なかなか「休憩時間」が取りにくい状態であるため、早々に全職員で改善策を考え実施できるよう進めていく。また、有給休暇や時間外手当など職員によって差異があるため、共通の認識を持って取得できるよう進めていく。

令和3年度 松江おひさま保育園事業報告

1. 計画に基づく総括(管理者の思い)

2021/3/31

・職員は、「常に笑顔を忘れずに!」「チームワークの強化」を目標に取り組んだ。笑顔は、子どもを始め様々な人との関りにおいて、安心感と信頼関係に繋がると考え、心掛けた。職員や子どもとの関りにおいても笑顔がみられ保育園全体の雰囲気明るくなったと感じられる。チームワークについては、非常勤職員を含め会話を通してコミュニケーションを心掛けてきた。

・乳幼児会議を通して子どもの状況を把握し一人一人に寄り添った保育が行えるようになり、他クラスへの意識が高まった。登降園時は他クラスの職員が保護者と関わる事も多く、会議を通してコミュニケーションが取りやすくなり会話が進むようになってきたと感じる。

・子ども達が安心と信頼をもって園生活が送れる環境づくりに常に意識をもち取り組んだ。

・感染症対策として、毎日の遊具の消毒により、遊具の痛みが早くなったと感じるほどだが、子ども達は手洗いなどの習慣が身につきコロナ感染症以外の感染症は例年より少なかったと感じた。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

・朝の受け入れ時には笑顔で対応し、保護者には、体調面や様子等を聞き変化があった事には、配慮や声掛けを行い、子ども達が安心して生活が送れるようにした。

・自由遊びの時間を大切に、子どもの「やりたい」の要求を受けとめ、やりたいことにむけて考えを巡らせ、行動したりすることが出来るようさりげなく手助けし充実感へ繋げた。塗り絵であれば、塗り方を教えたり、興味が膨らみそうな材料を用意し、上手に塗れるようになった時には褒める等の配慮をし日々を重ねた結果、塗り絵の上達がみられ子ども自身が意欲や自信に繋がり表情が生き生きしてきた。一つの事をきっかけに、多方面へ発展していくよう促していく。

・子ども同士の関りの中で相手の気持ちを分かろうとしたり、認めたり、励ましたりする場面が多く見られるが、子ども達同士で折り合いを付けらる時は見守り、仲介が必要な時は、お互いの思いを確認し合い解決に向けて話していく丁寧な対応をしたことにより、自分の気持ちを調整出来るようになり折り合いを付けれるようになってきた。

・園での様子を写真や文章で知らせ、子どもの育ちを家庭と共有していく事で、会話も広がった。今後も引き続き行い保護者との信頼関係を築いていく。

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

・引き続き職員間のチームワークの強化には意識を持ち取り組んでいく。

・子ども達は、個々に違いはあるが全体的にのびのびと保育園生活を送っており、一人一人の個性を大切に会話を多く持ち信頼関係を築いていく。

・園内研修や外部研修を通して「流れる保育」、「寄り添う保育」等、具体的な取り組みを学びより質の高い保育を目指していく。

・保護者との日常の会話を大切に、園での様子を写真や文書で知らせることを増やしていき、子どもの育ちを家庭と共有し支援していく。保護者のおかれている状況を察し、要望、相談などの対応を丁寧にしていく。

・危機管理においては、実際に想定しての防犯、防災訓練の実施。アレルギー対応では、誤食のないように常に意識して取り組み安心へと繋げていく。

4. 保護者からの評価を受けて

「先生方が明るく元気で話しやすい安心できる。」「コロナ禍で行事が中止になる中、活動の工夫をしていた。」等、信頼を寄せる声を頂き嬉しく思う。今後も引き続き丁寧な対応を心掛けて行く。安全対策について「園庭の門が開いている時がある。」「お迎え後、園庭で遊んでいて親が見ていなくて危ない」等の意見があった。園庭門に関しては再度、保護者に防犯対策と飛び出し事故の手紙を配布し、保護者と職員と協力し一緒に子どもの安全を守って行くよう促した。

5. 職員からの評価を受けて

それぞれが意見を言える雰囲気があり協力し合っている。コロナ禍の中、感染対策を強化した事で常に消毒、換気、手洗い等をより意識を持ち、取り組む事ができている。乳児、幼児会議を毎月行う事で園全体の子どもの様子が分かるようになりよくなっている。外部研修等、研修報告が書面での周知が多くなってしまったので、今後は、皆に直接伝える報告の場を設け周知し保育に活かしていきたい。書類作業等の時間がもう少し取れるよう工夫していく必要を感じる。

令和3年度 松本おひさま保育園事業報告

2021/3/31

1. 計画に基づく総括(管理者の思い)

- ・法人理念・園の保育目標の共通理解を基本とし実践する保育
- ・保育園におけるSDGs
- ・子どもの人権尊重・安心・安全な環境(人・物・場)。健康管理・危機管理を意識した保育の実践(養護)
- ・個々の発達を踏まえた主体的保育の実践「人・物・場」など様々な環境での主体的な遊びを捉えた保育(教育)
- ・保育内容の発信と地域と密接した保育園(子育て支援)

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

- ・安心・安全な環境で子どもたち一人ひとりに寄り添った受容的・応答的保育(養護)
- ・信頼関係の構築・安心感から自己肯定感の向上(養護)
- ・子どもの視点・創造力・発展性を捉えた保育(教育)
- ・子どもの興味・関心から遊びに発展した協働性(教育)
- ・子どもの成長共有・理解・共育(共に育てる)(子育て支援)
- ・一人一人の背景に寄り添った子育て支援

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

- ・職員は法人理念を基本とし、法人理念、保育園の保育の目標を深め、保育を実践していく。保育を実践する中でドキュメンテーションなどを活用し、保育を振り返ると共に、保護者へ保育内容の情報発信としても活用し、見える化に繋げていく。
- ・安全な環境改善として、正門改修工事・保育室鍵の設置を実施。物的環境だけに頼るのではなく、引き続き、保育の基本、人数確認・目視を重点とする。及び、大人同士の声掛けによる見守りを重点とすることを職員だけでなく保護者とも共有していく。
- ・働く環境のよりよい改善に努め、ボトムアップ出来るよう会議の在り方(PCによる情報発信・少人数会議など)を考えチーム保育を進めていく。

4. 保護者からの評価を受けて

- ・感染症対策を講じながらの行事・活動
- ・感染症対策による自然・地域との触れ合いの減少
- ・保育内容の発信の工夫

5. 職員からの評価を受けて

- ・保育環境の見直し
- ・一人ひとりの強み・弱みの共有と相互理解からのチーム保育
- ・個々を大切にした保育の実践

令和3年度 清新おひさま保育園事業報告

2021/3/31

1. 計画に基づく総括(管理者の思い)

- ・職員一人一人が自覚と責任をもって保育を進め、職員自らが楽しんで保育を進める環境を作ったりアドバイスするように努めた。
- ・職員同士の関係の中で、思いやりの気持ちが足りない場面が多く見られた。思いやりの気持ちを育てる難しさを感じた。
- ・子ども達のやりたい気持ちを引き出せるような言葉かけや一緒に考える場面を作った。
- ・コロナ禍で、リモートでの研修に参加し、ウェブ配信などで複数名が同じ研修を受けることで共有できる部分が多くあった。
- ・感染症対策として、行事の内容変更や中止が多くあり、保護者とのコミュニケーションをとる期間が少なかったが、ブログや園内に写真を掲示する等を行い、子ども達の育ちを共有するようにした。
- ・職員が様々な想定の実践を行い、危機管理意識を高めるようにした。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

- ・コロナ禍で少人数で保育を進めることで、一人一人と丁寧な関わりをもって保育を進めた。
- ・子どもの事を1番に考え、着替えや排せつ、遊び等、その子どもの成長に応じた関わりを持つようになった。
- ・英語やリズム等と今まで講師が来て行ってきたが、コロナ禍で講師が来園できないことが多く、職員がその代替えとして活動を行うことができた。またWebを使ってリズムを行うことが出来た。
- ・身体を沢山動かし、転んでもケガをしない体づくりを目指し、日々の活動の中に積極的に器具遊びを取り入れた。
- ・直接、子育てひろばに開催が出来ず、子育ての悩みを聞く機会を設けること少なかった為、リモートで行ったが、地域の子育て家庭への発信が不十分なところがあり参加者はすくなくかった。
- ・在園児の保護者と面談で子どもの悩みや成長を聞く時間を作ったが、日々の中での伝えあいが少なかった。

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

職員が子どもの一人一人を大切に思い、声に耳を傾けること、少人数での保育を今後も進めるように意識していく。職員体制が整わず、異年齢と集団にすることがあるが、集団の中の個人をしっかり見ることが出来る保育力を育てて行きたい。コロナ禍で出来なかった行事を少しずつ見直しながらか再開していくために、職員同士が意見を出し合い、話し合う時間を設けるとともに、全員が聞くだけではなく、自らが発信することが出来る体制を作る。異動で職員体制が変わったため、改めて全員が同じ方向で保育を進めて行くようにする。リズム、英語などは、講師が来ている時だけではなく、日々の保育の中でリズムや英語を行い、職員もリズムや英語を進んで行っていくようにしていく。

4. 保護者からの評価を受けて

子ども一人一人をきちんとみてくれているとの意見を多く頂いた。またコロナ禍で工夫して行事や日々の活動をしているのご意見も頂きました。行事の変更が掲示だけだったり、手紙が多いなどのご意見が多くあった。新しい園児管理システムを使い、行事の変更なども双方向で送ることが出来るようになり、活用していく。コロナ禍で、保護者と話をすることが制限され、もっと子どもの話を聞きたい、知りたい、日々の活動を動画で見たいとの意見があり、今後動画等、保育園の様子の見える化を目指したい。

5. 職員からの評価を受けて

一人一人が就業時間内で仕事を終える意識を高めるとともに、休憩時間をきちんととれるような体制を作っていく。自分のことだけではなく、周りにも目を向けること助け合える関係づくりをしていく。若い職員が多いため、丁寧に仕事を伝えたり、育成計画を立てたりすることが、今後の職員の成長を期待できると考える。育てようとする職員、成長しようとする職員の気持ちが合わさらないと育成は出来ないと思い、その部分に関してもきちんと研修計画をたてて、一人一人が学び成長できるようにしたい。

令和3年度 小松川おひさま保育園事業報告

2021/3/31

1. 計画に基づく総括(管理者の思い)

・保育の振り返りの際、他クラスの活動の良い点を認めたり、意見を出したりと以前に比べ保育内容に関して話すようになった。又、園内研修にて園目標を具体化する取り組みを行った。引き続き、知識の共有や保育士の配慮による個々の関りが子どもたちにどのように影響したか等を伝え合い、保育の専門性を高め合いたい。

・感染予防に務めたが、集団感染が発生した。振り返りの中で、最新の情報や知識の共有が対策を講じる上で効果的であると感じた。共有する際、話すだけでは伝わりにくいので、職員は体験を交えながら、保護者の方には具体的に伝えるよう心掛けた。

・コロナ禍で、改めて「会話」の大切さを感じた。直接話す事で同じ言葉でも相手の心境をより正確に把握したり、温かい言葉の掛け合いが不安な気持ちを静める効果があることを実感した。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

・日常的に手洗い、うがいの習慣が身に付いている。マスクを始めとする感染対策に於いて、子どもにとって何が優先か考慮して行った。(養護)

・一人一人の生活状況を考慮し、コロナ禍で不安な保護者の方の気持ちに寄り添う事が、子どもたちの心の安定にも繋がると感じた。(養護)

・子どもたちが興味を持ち、取り組めるような活動内容を考慮した。保護者の方にも活動内容を伝え、園に関心を持っていただくことにより、お子さんとのコミュニケーションに繋がっている。(教育)

・例年に比べ、クラス単位での活動となったが、他クラスを意識出来るような取り組みも工夫して行った。(教育)

・外国籍のご家庭が増えている。入園見学では日本語が話す事が出来ない方も来園する事がある。初めての集団生活で不安な気持ちを少しでも軽減できるように、個別の対応を心掛けた。子育てひろばをリモートで行うことを1月から試み、3月のみ実施する事が出来た。今後も可能な取り組みを考慮したい。(子育て支援)

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

・職員とコミュニケーションを取りながら、子どもたちの成長の援助者として、保護者の応援者として何をすべきかを話し合いながら園運営を進めていく。

・ウイズコロナという環境の下、感染防止策を講じながら、子どもの年齢に合った経験や行事を体験出来るようにする。

・職員から、今の時代に求められている「子ども主体」の保育を学びたいという意見を大切に、保育の質の向上を目指していく。

・子どもの人権を守り、安心、安全の保育環境を整えていく。

4. 保護者からの評価を受けて

・保護者の満足度は概ね高く、園に対して信頼をして頂いている中、不審者対応は大丈夫かという意見があった。園内研修で不審者訓練をするともに、不審者が侵入しづらい環境を作るためにも今まで開放していた事務所側の大門は登降園時のみとし、園庭側もカラーコーンを設置した。

・職員の登降園時の声掛けも個人差があるという声は毎年頂いているので、エピソードも交えながら適切な声掛けが出来るよう園の課題として取り組んでいく。

5. 職員からの評価を受けて

・多様な考えの職員が自分の立場からの意見が多く、園全体を良くするために職場の人間関係と個人の人間関係の違いを明確にし、職場内で気持ちよく仕事が出来たコミュニケーションの取り方を意識できるように進めていく。

・職員一人一人の特性を把握し、風通しの良い人間関係を構築出来るようにしていく。

・事業所が目指すことが、職員全体に周知されていないことと考え、温度差を埋めるために、年度初頭に、園内研修等を行い、目標を示し日々の中で確認していく。

令和3年度 南葛西おひさま保育園事業報告

2021/3/31

1. 計画に基づく総括(管理者の思い)

・コロナ禍の長期化により子ども達も慣れを見せ、その中で、経験を積む事で状況に合わせた遊びを自ら発見し楽しむ姿が見られた。遊びの発想を大切にしながら主体的な遊びについて更に学んでいきたい。

・人との関わりがクラス中心となり、様々な体験が減少したことで、自己表現の仕方や相手との関係作り等、戸惑う様子があり、情緒の安定に心掛ける対応が必要であった。異年齢児との関わりを持ちながら様々な人と関わる経験の機会を作っていききたい。

・感染症対応が中心となる保育が続き計画の変更となる事が多く、職員間での話し合いの機会作りに心掛けた。子ども一人一人に目を向けた情報の共有等行うことにより変更への迅速な対応となり、無理のない生活へ繋がった。

・「こころ」に着目したコミュニケーションスキル研修など、全職員にてWeb参加出来た事が子ども一人一人の受容や寄り添い、対話的な保育の大切さを学ぶ機会となり、子ども達の安心感や保護者理解へと繋がった。今後も対話を中心とした保育を心掛けていきたい

・保護者支援として、日々の活動をブログ等を利用し写真掲載、園内での様子を知らせる事が出来、保護者と子ども達の成長を共有するきっかけとなった。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

・コロナ禍での子ども達一人一人の情緒安定に繋がるよう、全職員での心を育むコミュニケーションスキル研修やアンガーマネジメント研修に参加。職員が同じ思いや考えを持ち、子ども達を受容しながら寄り添う対応に心掛けた。(養護)

・子ども達の心を受容する共通理解が保育の理解となり、更なるチームワークの良さに繋がった。子ども達にとっても、居心地の良さや、自身を理解してもらえる安心感等となり、より活き活きと意欲に園生活を送る姿となった。(教育)

・食物栽培を通して自然に興味を持ち発見の体験により、植物を大切に育てる心の育ちや、意欲、栽培から食への理解に繋がった。

・より戸外遊びに意欲的になり身体を動かして遊ぶ楽しさを感じる様子が見られ、体力の向上に繋がった。

・全職員にて食育研修に参加。食育に対する共通認識となった。(子育て支援)

・日々の様子を園ホームページのブログに掲載。コロナ禍で園内に入る機会が少ない保護者への見える化となり、子どもの発達への理解に繋がった。

・地域への子育て情報発信としてサポートセンターへの案内配布を依頼。コロナ状況により子育て広場の周知が課題となった。

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

コロナ禍での生活となり、子ども達の心の不安定さが見られてた。子ども一人一人の情緒安定の為、対話を通しての保育を意識したことにより、情緒の安定や安心感、居心地の良さに繋がった為、次年度も引き続き研修を通して全職員で対話を通しての保育を学んでいきたい。また、子ども達が安心、安全に伸び伸びと楽しめる環境として園内環境の見直しを行なっていく。

食物の栽培から収穫までの発見を通して、好奇心や探求心を育み、食への意欲やSDGsへの意識に繋げる保育を心掛けていきたい。また、地域への子育て情報発信として、園の様子を伝えながら、地域と繋がりを持ち理解に繋げたい。

4. 保護者からの評価を受けて

コロナ禍により、園外への散歩を始めとする戸外活動の充実への要望が多かった。次年度は戸外での遊び体験の充実に関心、園外での散歩を中心に、地域にある身近な自然に触れる機会を増やし、子ども達の心の動きがより感じられる体験や興味に寄り添う保育を心掛けていきたい。また感染症対応にて変更となった園庭門使用へのオートロック設置の要望があり、危機管理からも取付実施していきたい。

5. 職員からの評価を受けて

職員間の関係の良さが働きやすさに繋がっているとの意見が多かった。関係の良さが連携の良さとなってる、園の強みとして今後も大切にしていきたい。しかし互いを知る慣れから、過信や思い込み等が見られ、課題としている。今後も子ども達を中心とした保育を大切にしながら、保育の知識を広げ、互いに保育を学ぶ姿勢を持ち、刺激し合える存在としての関係作りを再確認していきたい。

令和3年度 西葛西おひさま保育園事業報告

2021/3/31

1. 計画に基づく総括(管理者の思い)

- ・子ども達が夢中になって遊べる保育環境作りへの工夫として、乳児クラスは、様々な手作り玩具を職員が準備した。発達状況に合わせた物や子どもの興味がある物を用意することで、集中して楽しむ姿や、ごっこ遊びに発展する様子を見る事が出来た。幼児クラスでは、クラス全体でごっこ遊びをしたり、興味が深まる事により、関連したごっこ遊びへと広がっていく様子等が見られた。遊びの中で育っていく姿を実感する事で、職員の喜びや意欲向上へと繋がった。
- ・部分休園等の対応が発生するため、保護者への連絡をしっかりと行い、混乱のないように努めた。基本的な感染対策を強化しながら、引き続き食事の仕方、布団の敷き方等、施設環境に合わせた、出来る限りの対応に取り組んだ。
- ・感染状況もあり、地域に向けての子育て支援は実施出来なかった。
- ・働きやすく働きたい職場づくりへの取り組みは、引き続き工夫が必要である。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

- ・一人一人が笑顔で安心して過ごせるよう、環境作りに取り組んだ。体調確認をしっかりと行くと共に、感染対策をしながら安全に生活できるよう努めた。(養護)
- ・子どもの思いや欲求を受け止め、個々に丁寧に寄り添うよう心掛けて保育に取り組んで来た。園外に出かける事が出来なかった時は、園庭を順番に使用し、伸び伸びと戸外遊びが楽しめるよう工夫した。(養護)
- ・遊び込める環境作りに力をいれた。遊びの発想が膨らみ、特に幼児クラスは、皆で一つのごっこ遊びをしたり、グループで一つの物を製作する等、仲間と共感し、刺激し合い成長する姿が見られた。又、園内研修では「鬼ごっこ」を取り上げ、職員同士で学ぶ事で発展し、子ども達の興味も深まった。(教育)
- ・感染対策もあり、送迎時に保護者とじっくり関わる事が難しく、コミュニケーションが取りにくい場面もあった。外国人が多いが、英語が話せる職員がおり、言語面での支援が出来たのは安心へと繋がったようだ。子育てひろば等、地域にむけての支援が実施出来ず、今後検討していく。(子育て支援)

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

- ・日々の園生活の中で、子どもがホッと安心できるような環境を更に見直し、一人一人の子どもを大切に、優しく温かく、思いやりを持って接する。子どもが愛されている、大切にされていると感じ、自己肯定感が高まるよう、個々の思いに丁寧に寄り添う。
- ・子ども達のやってみたい気持ちを大切に、遊びや活動を通じ、自ら育とうという力を支援し、豊かな経験が出来るよう子ども主体の保育に取り組む。又、その遊びや活動から何を学び、どんなところが成長へと繋がっているのか、保育者の思いをわかりやすく保護者に伝え、共有していく。(ドキュメンテーションの作成)
- ・子育てひろばや保育所体験等、地域に向けた支援を再開し、感染状況に合わせた開催方法を工夫し取り組んでいく。

4. 保護者からの評価を受けて

- ・感染状況を見ながら、子どもが自然や社会と関われるような機会を増やし、様々な経験が出来る様に取り組む。
- ・保育園運営の基本的な考え方(理念や方針)を、保護者にわかりやすく周知していく。
- ・送迎時等の保護者とのコミュニケーションを丁寧にとり、信頼関係を深める。

5. 職員からの評価を受けて

- ・職員の気持ちや考えを受け止め、より働きやすい職場環境作りが必要である。
- ・個々の思いを知り、改善点を把握し、皆で考えていく時間を持つ事で、より良い方向へ進めていく。
- ・職員同士、良好な関係が築けるようコミュニケーションを深めていく。

令和3年度 中葛西おひさま保育園事業報告

2021/3/31

1. 計画に基づく総括(管理者の思い)

- ・感染対策は保護者の協力を得ながら継続して行った。終息の見えない中、感染拡大防止の為生活の中に制限を設ける事も必要だが、マスクの着用や昼食時の配慮、異年齢児との関り等、子どもにとってどうなのか、矛盾を感じながらも最善を考え、保育園として出来る事を模索した。
- ・前年度の反省から事故防止や自然災害などの危機管理に共有する時間を設けた。
- ・昨年度から継続してリズム遊びを取り入れている。今後も健康的な身体作りと怪我の予防の為、継続する事で成果に結びつけていきたい。
- ・保護者に対する職員の個々の関りが評価されると共に、仕事に対する前向きな姿勢が園の強みになっている。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

- ・感染症対策として、引き続き登園時の手洗いや感染症罹患の周知等注意喚起を行った。共通の認識が持てる様、感染症の対応やBCP等園内研修にて周知する。(養護)
 - ・運動遊びやリズム遊びを通して、心身の発達や全身を使って表現する事の心地良さを感じられるように意識をして取り組んだ。直接的な異年齢児交流は困難であったが、異年齢児を意識した関りが持てるように配慮した。(教育)
- 配慮が必要なお子さんは専門機関と連携をし、保護者の方の気持ちに寄り添い見守った。育児への悩みで心身のバランスを崩している家庭には複数回個別で話す時間を設け、何でも話せる存在となるよう努め、支援した。(子育て支援)

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

感染症対策と子どもの心の育ちが両立できるよう、職員、保護者の方と意見交換を交わし、より良い方法を考えていく。又、感染対策の緩和の際は、以前のまま戻すのではなく、子ども達にとって必要な事は何か職員とよく考え、長期間に及ぶ感染症対応の中での気付きをこれからの保育に生かすようにしていきたい。

法人理念である「養護」「教育」「子育て支援」に関し、園内研修を行い共通認識が持てるようにする。その中で子どもの発達に目を向け、保育士の援助との相互関係を意識して振り返りを行うことにより、保育士としての役割と責任を改めて意識していく。少子化や配慮を要するご家庭等、保育園を取り巻く環境の変化を踏まえ、地域に求められる保育園づくりを継続して行っていく。

4. 保護者からの評価を受けて

「子どもの気持ちを尊重した対応がされているか」等の項目で、職員の対応を評価して頂いた。コロナ渦で行事等の縮小もあり、保護者との関わる機会が減少傾向にあるが、職員の物事に対する前向きな姿勢を強みに、送迎時の対応等、より意識してコミュニケーションを心掛けて行きたい。

5. 職員からの評価を受けて

園内研修や休暇取得等の現場環境は、概ね満足している職員が多かった。危機管理に関しては、異動や入職する職員が居ることも踏まえ、今後も毎年園内研修で行い再確認していきたい。又、残業に偏りが見られるので、職員の仕事の進捗状況を把握し、調整していく。

令和3年度 松島おひさま保育園事業報告

1. 計画に基づく総括(管理者の思い)

2021/3/31

- ・新しい生活様式が日常となり、感染症対策をしながらの保育にも慣れ職員一人一人の意識も高まった。
- ・新型コロナの感染状況が刻々と変化する中、臨機応変に今最大限に子どもの為に出来る事は何かを話し合い、前向きに保育に取り組めるように努めた。職員のやりたい事が実践出来るよう提案に耳を傾け、子どもの成長する姿、楽しむ姿を見、保育の楽しさややりがいを感じ更なる意欲へと繋がった。
- ・「一人一人に寄り添う保育」では乳児保育の充実や個々の発達や育ちの違いを理解し、一人一人の子どもと向き合う保育の実践が出来るようになってきたが、クラス内で解決しようとして苦しくなる等、全体への情報発信や共有、協力の面は今後の課題である。
- ・保育の見える化を目標に取り組んだが、クラス間で情報発信に差がある等、職員間での意識の違いがあった。保護者へ情報発信するねらいや目的を伝え理解を得ることや、情報発信の仕方を確認し工夫し合うことが必要であった。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

- ・乳児は少人数グループで丁寧に子どもと関わる保育が少しずつ定着してきた。落ち着いた環境の中、生活や活動が出来るようになり安心、安定に繋がっている。
- ・嘔吐、下痢、新型コロナウイルス等の発生が度々あったが、都度、職員間で消毒方法や対応等を徹底しながら対策を行い感染症予防への意識が高まった。
- ・職員がアイデアを出し合い、コロナ禍でも子どもが様々な経験が出来るよう楽しい保育の実践に取り組んだ。「子どもが主体の保育」には理解が不十分な面もあるが、子どもの声を聴き保育をする姿勢には繋がっている。
- ・行事はクラスごとの実施が主だったが、その中でも園全体で一体感が持てるように、又異年齢児の活動や様子にも興味、関心が持てるように計画し取り組んだ。
- ・昨年に続き保育参観が殆ど中止となり、行事の縮小もある中、保護者に保育を感じて頂く機会が減少した為、クラスだより等で子どもの姿を伝え、写真を用いての掲示やブログの更新等に取り組んだが、伝え方や回数には課題が残る。
- ・子育てひろばや地域との交流は、園内での新型コロナによる部分休園も相次ぎ行うことが出来なかった。

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

- ・コロナ禍により保育や行事の取り組みに常に変化が求められてきた中、今後は日常に向けての保育の流れや考え方等を定着させる為、職員間での話し合いや情報共有がより一層大切になる。「子どもが中心の子ども主体の保育」「日々の保育の積み重ねとしての行事」とはということかを園内研修や会議等で考える時間を設け、共通理解を図り保育の質の向上に努めていきたい。又、乳児保育についても職員間で共通の対応が出来るようにしていく。
- ・保護者対応では、伝達だけではなく保護者とコミュニケーションをとり日々の様子を登降園時に丁寧に伝えたり、掲示や保護者用アプリの活用、ブログ等での情報発信を充実させ保育の取り組みに対する保護者の理解に繋げると共に、子どもの成長を共に喜び合える関係作りを目指す。又、子育てひろば等地域との交流を再開させることで、地域の中の保育園である意識が持てるようにしていく。

4. 保護者からの評価を受けて

- ・職員がいつも笑顔で優しいという好意的な評価が多いが、形式的な連絡のみという意見もある為、丁寧に日々の様子を伝えられるよう今後取り組んでいく。
- ・コロナ禍の影響で散歩や戸外遊びの充実を求める意見が多かった。少しずつ散歩へ行く日は増えてきているが、更に「工夫し活動の充実を図ってきたい。
- ・通園門の開閉等、安全対策を求める意見には園だよりや掲示、声掛け等で対応しているが、改修等も含め設備の安全強化を検討していく。

5. 職員からの評価を受けて

- ・職員同士の関係が良好でお互いを思いやり協力し合っている為、休暇や休憩がとりやすい反面、保育体制が厳しくなる傾向にある。その中で一人一人に寄り添い丁寧な保育をするにはどうすれば良いかを職員と共に考え工夫し進めていけるようにする。
- 日頃から職員の声に耳を傾け、コミュニケーションをとりながら考えや意見を出しやすい雰囲気作りに努め、チーム力を高めていきたい。

令和3年度 清新第二おひさま保育園事業報告

1. 計画に基づく総括(管理者の思い)

2021/3/31

- ・保育目標を基本とした安心、安全、信頼、協力のもと、心のこもった保育に努めた。
- ・「新しい生活様式」に沿った中で日々の保育や行事等、前向きなアイディアを出し合い工夫した。
- ・保育制度の動向を見据えた人材確保と収支バランスを考えた運営を心掛けた。
- ・今後の予定や起こりうる想定、それに対する具体的な対応策を早い段階から発信(情報提供)し、職員の迷いや不安など慌てる事のないように努めた。
- ・職員に不安や迷いが生じないよう具体的な成果を認め、園長としてのリーダーシップ(判断、決断力)を心掛けた。
- ・研修等で得た知識や技能など、職員間で共有する事で専門性の向上に繋がった。工夫しながら園内研修の充実もはかれると思う。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

- ・「新しい生活様式」に沿って安心して遊べる環境の設定やヒヤリハットを活用した事故防止(怪我や事故、感染症に対する職員の意識向上)に取り組んだ。
- ・体験を通し感性や想像力を育む保育を大切にしてきた。
- ・日々の保育の中で、体力の向上と何事にも諦めずに粘り強くチャレンジする気持ちや出来た時の達成感が得られる保育を進めた。
- ・入園の問い合わせや園見学の時では当園のより具体的な資料を作成、配布し入園へつなげる取り組みを行い、在園児の家庭からの個別相談を通じて情報提供や助言等、その状況に応じた支援を行った。

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

園児や保護者、職員同士も含め、相手の立場になり思いやりを持って接する事が出来るよう日々伝えていく(相互支援的な環境作り)。
防災、防犯、感染症対策について共通認識、理解、マニュアル等の再確認を行う。
園児数については今後の動向を注視していく。保育士の人材確保と収支のバランスを考えた運営、感染症対策を踏まえた上で子ども達が生き生きと楽しめるよう日々の保育や行事の実施に向けた発想や工夫を職員全員で作っていき。

4. 保護者からの評価を受けて

園舎が緑道に面している為、四季折々の季節感を感じることで自然との関わりが十分に確保されている点や園での様々な活動に子ども達が興味や関心を持って楽しんで過ごしていることに高い評価を頂いている。降園時の保護者に対しての報告や連絡等の伝達漏れについては職員一人一人が意識を持ち改善して行きたい。

5. 職員からの評価を受けて

コロナ対策を通じて行事や保育を改めて見直す機会となった。職員間のコミュニケーション、人間関係が良好であり仲が良いことはいいのだが、馴れ合いにならず気付いた事は互いに注意し合い研鑽努力できるよう進めて行く。これからも子ども達や保護者にとって更に何が出来るのか等を考えながら保育を作り出して行きたい。

令和3年度 北小岩おひさま保育園事業報告

1. 計画に基づく総括(管理者の思い)

2021/3/31

・コロナ禍により、行事が簡素化された中、子どもたちには保育園での生活を充分楽しんでもらえるよう創意工夫しながら保育園運営を進めた。
・運動会は、全員が同時に参加できるように考え、年齢ごとに時間差もうけ、今までとは違う運動会の雰囲気味わう事が出来た。
・4月から大きなコロナ感染の発症もなかったが、12月頃より感染が拡大、特に低年齢児が感染し、体調の悪い子どもへの早めの受診など、保護者へ協力を求めたが1,2歳児クラスの一部は休園になってしまった。その後は継続的に保育園の運営が続けられるよう適切な対応を図った。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

・感染症に関しては、特に体調が悪い園児の保護者へ感染症対策情報を提供し、感染拡大防止に努めた。しかし、コロナにばかり目を向けていて、嘔吐、下痢などの症状を見過ごしがちだった面もあり、引き続き全般的な保育園の安心安全のため、特に衛生面に配慮していきたい。(養護)
・身体づくりを大切にし、散歩を通して歩行を基礎としたマット、縄跳び、ドッチボールを行い、ルールを学ぶなど遊びながらも自然との共存を実行していきたい。(教育)
・コロナ感染症が流行以降、保護者への子育て支援が思うようにできず、リモートの活用なども考えたが、本来対面でのコミュニケーションが大切な子育て支援でもあり、以前のように保育現場での体験、相談を早く実施できるようになることを望んでいる。(子育て支援)

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

今後は感染症対策を行いながら、通常の保育の展開をしていきたい。この三年間で培った、感染症対策やその中での保育の体験を無駄にする事なく進めていきたい。
地域とのつながりを大切にし、子どもにとって様々な経験が出来るように、チャレンジザ・ドリームの受け入れや小学校・他保育園との交流はもとより、他のおひさま保育園との交流も大切にしていきたい。
近隣保育園が増えてくる中、おひさま保育園としての特色ある保育をアピール出来るような取り組みを実施していきたい。

4. 保護者からの評価を受けて

・保護者からのアンケート調査では満足度も高い評価を得ている。今回のコロナ禍の中でも、大変協力的に休みをとって頂いた。
民営して5年が経ち、私立園の良さを改めて理解して頂けたと喜んでいる。
これに甘んじることなく今後活かしていきたい。

5. 職員からの評価を受けて

・職員からは皆で話し合いながら行事を進めていく姿勢が好評である。
一人一人が話し合える雰囲気を皆で作上げていけた事が良かったと思う。
異動に関しては少々不満も聞かれたが、法人全体を考えれば致し方がないと、思えるような職員となれるように育成していきたい。

令和3年度 南篠崎おひさま保育園事業報告

2021/3/31

1. 計画に基づく総括(管理者の思い)

- ・コロナ感染症による、新しい生活様式を基に状況に応じた保育の形をとる中での運営に対し考えるべきことが多々あった。
- ・子ども達が生活の中で変化する場面や取り組みの際、職員間で検討し、子どもがあらひのままで過ごしやすい環境が整うように工夫し、安心安全な環境での保育ができるように取り組んだ。
- ・職員の一人一人が出来ることを自分で考え、提案し、子ども達の事を第一に考えた保育に取り組み、子どもの育ちを保護者と共有することで、保護者との信頼関係の深まりを感じた。
- ・感染症対策を行っていたにもかかわらず、部分休園を避けることが出来なかったが、保護者の理解を得ながら職員の協力があり乗り越えることもできたように思う。
- ・子どもの入園数減、収入の減少など課題は多い。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

- ・年度初めより通年を通して園目標をはじめ子どもに関わる園内研修を行い職員の共通認識となるように取り組んだ。(養護)
- ・一人ひとりの意識の向上になったが、常に意識できるよう定期的に学びあう時間を作ることが難しかった。(養護)
- ・職員が言葉掛け等を静かに伝えることを大切に実践することで子どもの情緒の安定に繋がった。(養護)
- ・子ども達のやりたいという気持ちを大切に、保育の中で様々な経験が出来るように職員が工夫、取り組むことで子ども達が主体的に考えたり、遊びが展開することもあった。(教育)
- ・講師の体操を振り返りながらクラスごとに十分に身体を動かす活動を定期的に継続し、職員の学びや子どもの心身の発達に繋がったように思う。(教育)
- ・送迎の際にゆっくり話することが出来ず、感染症の状況により保育参観、参加は難しかったので感染症対策を十分にに行い家庭ごとに個人面談の機会を設け子どもの成長や姿について話し合う機会を設けた。また必要な家庭には状況に応じて話す機会を設けていった。(子育て支援)

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

保育理念をはじめ様々なことを、職員と学び共に保育園を作り上げる意識を持ちながら子ども達にとって大切なものをしっかりと考え進めたい。
職員一人一人の保育の質の向上に必要なこと、個々が何を求めているかを把握、理解したうえでスキルアップに繋がられるような園内研修の充実化、指導、取り組みをしていくことが必要と感じる。
子ども達も保育の中で遊びを考えるよう、職員も保育の中で考え、ワクワクするような保育の取り組みまた職員が子ども、保護者の気持ちを理解することはもちろんであるが、職員同士が認め合い、気持ちの理解を丁寧に行いチームワークを高める意識を持つ話し合いなどを行い風通しの良い職場環境を構築できるような取り組みを行っていききたい。

4. 保護者からの評価を受けて

コロナ禍での保育や職員の対応など総合的に満足という評価を頂く半面、職員の接遇について個人差があるという意見もあり言葉遣い、挨拶など次年度に向けて継続し指導、意識付けが重要と考える。特に登降園時の声掛けについては不満に感じる意見もあり、保護者に寄り添えるような言葉かけが出来るよう職員会議などで検討し改善できるところは努力していききたい。また保護者との信頼関係がさらに深められるよう一人一人が意識できるようにしたい。

5. 職員からの評価を受けて

クラスや全体の様子を共有し、職員が話し合いを重ね保育について話し合いをしながら、改善しようとする機会が増えたり、休憩など声を掛け合い取れるように工夫する面が良いと思うという意見もある。保育について考える時間を作ったり継続できるようにしたい。
職員の保育体制や休憩の取り方に不満を感じている意見もあり、自分たちの働く環境を受け身ではなく、自身で良くしていけるように様々なことを職員と一緒に考えさらに工夫をすることを積極的に進めていききたい。

令和3年度 新田おひさま保育園事業報告

1. 計画に基づく総括(管理者の思い)

2021/3/31

・コロナ禍での取り組みの中、課題となったのが、保護者に保育の取り組みを伝える方法であった。行事の殆どが中止になったことで、子ども達の園での様子を実際に見ていただくことが出来なかったことが原因である。課題を解決するための取り組みとしては、やはり、子どもの姿を通して保護者に理解していただくことが一番だと感じた。

・異年齢児交流が出来ないことにより、クラス内での育ちが主であった。保育はどのクラスも工夫があり充実していたが、やはり、異年齢児との交流で育つ気持ちの部分で子ども達が経験出来なかったことは残念であった。

・職員一人一人の力が集結し、園の力になる実感が持てる関係を築くことを目標の一つにしていた。開園から3年で職員間の力関係が出来上がってしまい、一人一人の良さを十分に発揮出来ない状況であった。どのクラスも「報連相」すら徹底できない関係であった為、面談をする中で関係性について改善を図ったが、なかなか改善出来なかった。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

・子どもの姿から保育内容を展開し、どのクラスもその時の育ちに合った保育が出来ていた。特に、幼児は園目標に対する保育の中のエピソードをクラスだよりで伝える取り組みを行い、遊びや日々の生活を通して心に響く保育内容であったと感じる。その結果、子ども達を通して保護者にも保育の思いが伝わっていた点良かった。(養護)

・専門講師の運動遊びを取り入れたが、コロナ感染症の予防の為殆ど行うことが出来なかった。また、クラス毎の保育であった為園庭を使用する時間に限りがあり、少し運動不足に感じた。日々の遊びは充実することが出来、ごっこ遊びや昆虫を育てる、野菜の栽培等、子ども達の「知りたい」を沢山深めることが出来、学びへと繋がった。(教育)

・子育てひろばをほぼ行うことが出来ず、年間通して出来たのは1回のみであった。地域の方の力にはならなかったが、園内では、保護者と子どものことでたくさん話をすることが出来た。日々の会話が合った為か、年間通して個人面談を受け付けていたが、希望する方は少なかった。(子育て支援)

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

・人的環境を第一に整え、強化することで子ども、保護者、職員同士等、誰にとっても心地よいと感じる生活の場にする。(養護)

・子どもの日々の姿や対話から保育環境と整え、学びの多い保育へと繋げる。また、自己評価をしっかりと行い保育を向上させていく。(教育)

・それぞれの子育て家庭に寄り添った支援が出来るよう、「寄り添う」ということの理解を深め園内研修で学んでいく。(子育て支援)

4. 保護者からの評価を受けて

職員が丁寧な保護者対応を日々行っているおかげで、アンケートでは高評価をいただいた。また、保育内容についても子ども達が楽しく園に通っていることから高い評価であった。今後も、さらに良い評価をいただけるよう、丁寧な保護者対応と子ども達が「明日も保育園に行きたい」と思える保育内容を日々の子どもの姿から展開して行きたい。その為に、一番に人的環境を整えていきたい。

5. 職員からの評価を受けて

職員の働き方に関して、職員主体で見直しをする必要があると感じた。会議を重ね、園の課題は自分たちの課題でもあることを自覚し、前向きに改善していけるような働きかけをしていく。

誰もが働きやすいと感じるには「報・連・相」の徹底が必要であると感じる。徹底することで、必然的に誰とでも話をする環境になる事がねらいである。

誰とでも意見を交換し、子どもの話題で笑い合える職場環境を作っていく。

令和3年度宇喜田おひさま保育園事業報告

1. 計画に基づく総括(管理者の思い)

2021/3/31

職員間のチームワークや結束力は一段と強くなり、互いに助け合い、法人の基本理念や保育目標を常に意識しながら日々の保育を進めることが出来た。しかし個性が強く出てしまい、保育の中でぶつかることも多かったが、都度基本にかえり、子ども中心の保育や子どもの気持ちに寄り添いひとりひとりの思いをしっかりと受け止めることを大切にしてきた。職員が様々な意見を出し合いより良い保育の質の向上を目指すべく取り組みをしてきたが、意見を出す職員が偏りがちになってしまう傾向にあったため、主任、副主任と共に、意見を出しやすい環境の改善に努めた。

安心、安全、安定的な保育園運営を心がけ園児、職員の健康管理を第一に考え感染症対策について、職員と意識を高めた。いまだ収束の目処が立たないコロナ感染症に関しては、予防に努めながら、「新しい生活様式」を基に、国や江戸川区の動向を見据えながら、保育園運営を進めた。又、保護者の理解も必要なため、情報収集や情報提供などのコミュニケーションを図りながら、進めたところ大きな混乱が生じることはなかった。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

- ・個々の発達に応じて基本的な生活習慣の確立を目指し、欲求が満たされるようにした。よく遊び・よく食べ・よく寝るをモットーに宇喜田おひさま保育園の目標である「心も体も元気な子」を目指し、その中で子どもの人権を尊重し、認めることにより安心してのびのびと生活することが出来た。(養護)
- ・十分に遊びこめる環境設定や本物に触れる機会を増やすために、素材の提供を全職員が共通理解の元、日々の保育を進めた。その中で『やってみよう』の気持ちを大切にし、スモールステップの確率を目指した。結果、子どもたちの成長は大きかった。(教育)
- ・在園児保護者支援は、何よりもコミュニケーションを大切にし、園での子ども様子を保護者に伝え、共に成長を喜び合える場を積極的に作るようにした。地域の子育て支援事業に関しては、新型コロナウイルス感染症の収束が見込めないため、リモート開催を試みたが、小人数の参加しかなかった。実際に保育園に足を運んで頂き園での様子をご覧頂けないのが、残念ではあった。(子育て支援)
- ・養護、教育共に、小学校までに育ってほしい10の姿を常に念頭においた。

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

法人の基本理念と保育園の目標を具現化し、職員に十分に落とし込めるように園内研修などを通して進めていく。令和4年度の事業計画を基に、一人一人の子ども達を大切にし、丁寧な関わりの中で気持ちに寄り添い、意欲を引き出せるように担任間の話し合いを密にする。引き続き、様々な体験や経験を積み重ね、成功体験を重ね子ども達のチャレンジ精神を引き出せるようにする。

保護者との信頼関係を築くためにも、コミュニケーションをとれるように、積極的に話しかけ子どもの話題を中心にし、信頼を厚くする。また、保育活動の様子などを発信し、子どもたちの成長をともに喜べるようにする。そのツールの一つとして、ホームページのブログや今年度から導入した園児管理システムを活用しドキュメンテーションを通して子どもたちの活動や成長を継続していく。

4. 保護者からの評価を受けて

利用者アンケート以外にも各行事毎にアンケートを取り、フィードバックをしているが保護者からはいつも温かい言葉や感謝の気持ちを頂き、職員の意欲向上につながっている。今後も保護者と互いに手を取り合い子どもたちの育ちを支える役割となるようにしていく。

5. 職員からの評価を受けて

会議などで決まったことが事前に変更され、混乱が生じるという意見があった。コロナなど様々な状況で変更しているが、それが全職員に周知されていないことからそのような声があがったものと考えられる。周知方法や会議体を変えていく。令和4年度は、職員が保育を楽しめるように様々な意見を吸い上げ、会議を職層や保育経験年数別に分けたものを新設した。効果を検証しPDCAを実践していく。